

# 感染生物学特別講演会Ⅲ

演題：腸内細菌叢機能の包括的理解に基づく

新たな疾患予防・治療戦略

演者：福田真嗣

慶應義塾大学 先端生命科学研究所 特任准教授

日時：2015年2月12日（木） 17:00-18:00

会場：イノベーション棟8階講堂

要旨：

ヒトの腸内には数百種類で100兆個にもおよぶ腸内細菌が生息しており、宿主細胞と相互作用することで複雑で洗練された腸内生態系を形成している。腸内細菌叢は宿主免疫系や脳機能の発達に寄与する反面、そのバランスの乱れが大腸癌や炎症性腸疾患といった腸管疾患の発症に関与し、更には肝臓癌やアレルギー、糖尿病や自閉症といった遠隔臓器疾患の発症にも繋がることから、腸内細菌叢は宿主の生命機能を左右する主要な臓器の一つと捉えることができる。われわれはこれまでに、腸内細菌叢の代謝動態に着目したメタボロミクスを基盤とする統合オミクス解析技術を構築し、酢酸や酪酸といった腸内細菌叢由来代謝産物が、腸管感染症の予防や粘膜免疫系の発達に寄与することを明らかにしてきた。今後はこれらの腸内環境情報を基盤とし、腸内細菌叢を標的にした新たな疾患治療・予防技術の確立や、セルフメディケーションの見地に立った腸内細菌叢改善を促す機能性食品開発など、腸内環境情報に基づく新たな健康維持戦略を構築する。

連絡先：筑波大学医学医療系 野口雅之（内線 3750）